

研究成果 3,000 字程度 (別紙添付可)	本年度（研究 2 年目）の研究計画では、障がい者雇用を重視しつつ、高い生産性を実現している事業所として、①京都府に所在するオムロン京都太陽株式会社、②大分県に所在するオムロン太陽株式会社、③兵庫県に所在する YKK 六甲株式会社を代表事例として取り上げ、以下 3 つの内容を明らかにする予定であった。 すなわち、第一に、障がいの内容と程度に応じてどのような雇用形態（直接雇用と間接雇用、雇用期間、勤務時間、勤務場所など）を用意しているか。第二に、どのような職場編成を行っているか（職務の配分、作業方法の工夫、サポート体制など）。第三に、どのような評価システムを採用しているのか、の 3 点であった。 調査方法としては、文献調査、観察調査、インタビュー調査、文書資料の収集分析を採用することとしたが、前年度（研究初年度）の文献調査、先行研究の整理をふまえて、引き続き、①先行研究調査を行うと同時に、②観察調査（工場見学）およびインタビュー調査を行うとしていた。 これらの調査方法のうち、①先行研究調査についてはすでに初年度である程度の形ができており、2 年目の本年度は②観察調査（工場見学）およびインタビュー調査を中心に展開する予定であった。しかし、予定している調査先が、障がい者雇用を重視している会社であることから、新型コロナウイルスに対してよりいっそう細心の注意が求められ、新型コロナウイルスの感染状況に鑑みて、②観察調査（工場見学）およびインタビュー調査を断念せざるを得なかった。 当初、新型コロナウイルスの感染拡大によって現地調査が実施できない場合には、先行研究の調査を中心に実施することも見込んでいた。しかし、本年度の研究は、②観察調査（工場見学）およびインタビュー調査による第一次資料の収集があってこそ価値のある成果が期待できる研究であることから、いわば「表層的」な文献調査のみを進めることは自粛した。 その結果、本年度は研究予算を執行せず、かつ、研究活動自体を断念した。
--	---